

2014年10月1日発行（第30号）

## 事務局長あいさつ

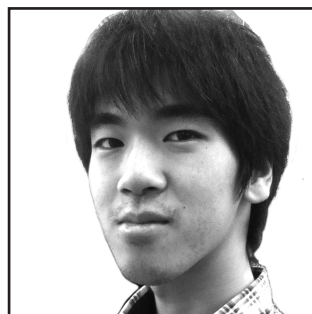
14年度の事務局長に就任した小川遼です。既に半年が経過しました。就任前からいろいろと改革の構想を練ってはいたつもりでしたが、なかなか上手くはいかないものようです。あちらを立てればこちらが立たない。何をするにしてももっともな批判がかえってきます。重たくて身動きがとりづらい。うんざりもするけれど、たぶん労福会の15年の歴史が形作ったバランスというものもあるのでしょう。燃えるコンロの炭も下手につつくと消えてしまうことはよくあります。安易な判断は避けるべきなのかもしれません。

いくつもあるでしょうが、現在抱える一つの課題について、この場を借りてご報告申し上げたいと思います。実働人員の不足です。現状として運営の仕事をするのは代表と副代表、そしてたった3,4名の事務局員しかいない。仕事の量を考えると僅かなものです。そこで会員の皆様におかれましては、お忙しいこととは思いますが、労福会を対象化しその問題点を指摘するのではなく、会を構成するメンバーとしての意見と行動をお願いしたいと思います。

昨今、政治への無関心や無気力を嘆く声をよく耳にしますが、これはもしかすると根を同じくする問題です。あるドイツの哲学者は主観／客観という図式を現状肯定のイデオロギーであるとして批判しました。現状を自分自身が作り出しているという作用を忘れてしまうために、社会や政治のありようをまるで与えられた自然のように思ってしまう。政治への無気力の淵源はここにあるのかもしれませんが。また、だとすると、それについてただ嘆くという態度もそうでしょう。労福会の現状は労福会に関わる全ての人作り出しているのです。希望をもって、申し添えておきます。

最後になりましたが、今後も活動に尽力していく所存ですのでご協力のほどよろしくお願いいたします。

（事務局長 小川遼）



# 炊き出し

5月31日、エルプラザの4階調理室にて炊き出しを行いました。今回は他団体との共同ではなく、労福会単独での開催だったため、食事の材料を揃えるところから調理までを労福会のメンバーで行いました。

献立は天使大学の料理研究サークル「たべてる」さんに作っていただきました。ホームレスの方々の栄養面を考慮して、また、学生が調理の中心となる労福会メンバーの料理の腕を憂慮してか、簡単、かつ栄養バランスの取れた丼物とスープでした。



当日は17人の学生が集まったため、野菜を切るなどの単純作業は人海戦術で乗り切りましたが、60人分の料理に使う調味料の塩梅に難渋し、味見のし過ぎで味が分からずその間に鍋が焦げる、シイタケに痛んだ物が混ざっているなど想定外のハプニングが次々と起こるのは、さすが労福会。どうにか予定時間内につくることができましたが、メンバーの料理の技術向上が待ち望まれるところです。



炊き出しには42人程の方が来ていました。例年とほぼ同じ人数です。丼ぶりの具が余って、ご飯が早々に無くなってしまったことが悔やまれます。



食事の提供のほかに衣料の配布や散髪も前回同様行われました。また、今回は大学院に所属していながら、プロのモノマネ芸人でもある三浦健一さんにご協力頂き、モノマネを披露していただきました。おそらく三浦さんも炊き出しの場でモノマネを見せる機会はこれまでになかっただろうと思いますが、そこはさすがプロ、会場の空気を瞬時に掴み、特に十八番の美川憲一のネタでは場の全員を大いに沸かせていました。炊き出しには42人程の方が来ていました。例年とほぼ同じ人数です。丼ぶりの具が余って、ご飯が早々に無くなってしまったことが悔やまれます。



小さなトラブルは随所にあったものの、全体としては滞りなく、終始和やかな雰囲気で行うことができたようです（これを書いている自分は古いシイタケを食べて途中からトイレに籠っていたので、詳細は不明です）。

最後に、炊き出しに協力していただいた皆様、特に労福会の行事に初めて参加していただいた学生のみなさん、三浦健一さん、「たべてる」のみなさん、散髪を快く引き受けていただいた及川さん、竹村さん、食材を提供していただいた「ハンズハーベスト」の皆様に改めて御礼を申し上げます。次回もどうぞよろしくお願いいたします。（松原有吾）



# コミュニティハウスれおん見学

私は今回、初めて生活困窮者やホームレスを対象とするシェアハウスの見学をしました。施設では、手作り竹トンボやコマなどのおもちゃの製作や販売などを通して中間就労を行っていました。また、専門業者の指導のもと清掃技術を身に付けたり、スタッフの付き添いのもと料理などの家事を行うなど、生活能力を身に着けるための取り組みが行われていました。軽作業の種類は、スタッフが個人の希望や作業能力に合った内容をカンファレンスを行ったうえで提案し、対象者が徐々に自立して行えるように進めていくという個人に合わせる配慮がありました。また、面談も定期的に関われ、その時々を対象者のニーズを把握し支援する関わりを行っていました。実際に居住スペースを見学すると、とても雰囲気は温かく一般家庭に近い印象を受けました。スタッフが対象者へ明るく声をかけ、対象者が笑顔で挨拶し見学者を受け入れてくれる様子からは、スタッフと対象者の関係性が築けていることがうかがえました。

私はこのような施設に対して、対象者は生活や就労に関する厳しい指導を日々受けながら共同生活をするという学校のようなイメージを持っていたので、スタッフと対象者との関係性の良さに驚きました。これは、援助する側が対象者に対して、個人の経歴や性格、生活能力を理解し、面談等を重ねながら徐々に関係性を築くことができているからこそ感じられることなのではないかと思いました。私は看護学を専攻し、対象者へ援助する際には個別性を大事にして関係性を築くことが基本であると学習してきました。対象と関わる際に大切にす  
るポイントに、今回の見学と学校での学習において共通する点があると思い、改めてその重要性を再認識しました。今後もこのような他職種の方々の活動を知る機会があれば積極的に参加し、自分の将来にいかせるような学びを得ていきたいと思います。(吉田知代)

# 人 数 調 査

労福会が結成されて以来、札幌市内の野宿者の概数をカウントする「人数調査」は、毎年継続して実施されています。

今年も 2014 年 8 月 31 日（日）にいつものように早朝 3 時から行われました。なぜそんな早い時間に行うのかというと、札幌市内のホームレスの特徴として公園や河川敷などにテントや小屋を構えているいわゆる「定住型」の人がいないということが理由として挙げられます。つまり日中に調査を行うと「おじさんたち」は街を歩いたり、駅や公共／商業施設などの建物の中にいたりして、一般の人（家のある人）との見分けが難しい。早朝 3 時であれば人通りもほとんどないため確認しやすいだろうということでこの時間が設定されています。

表 1 のとおり、札幌市内で確認された人数はここ数年減少傾向にあります。私たちのこれまでの活動（炊き出しや夜回りなど）の実感からすると、実態として人数が減ってきているのだろうという推測を立てることができます。

しかし私たちは、その一方で調査の精度の問題も残っているとも考えています。具体的に言うと、調査は札幌駅からススキノ・中島公園までの範囲の市街地エリアとそれ以外の郊外エリアの 2 つに大別して行われるのですが、ここ数回の調査では参加できる調査員数の関係もあって、特に市街地エリアが手薄になっていたのではないかとこの反省がありました。

そこでこれまで一斉に札幌市内全域に散らばって調査していた手法を見直し、A.M.3:00 ～ A.M.6:00 を一次調査として市街地を全員で手分けして回り、A.M.6:30 ～ A.M.8:00 を二次調査として郊外エリア（主に駅舎、バスセンターなど）に散っていくという方法を採用することにしました。このことによって市街地で回りきれなかった地域もくまなく確認できカウント漏れを防ぐことができたのではと思います。

ただし、課題もありました。一つは二次調査への開始時間の問題です。朝 6 時半だとすでにたくさんの人が駅舎を利用しており確認が難しかったということです。郊外で確認できたのはこれまでで一番少ない 1 名のみでした。結局人手不足の問題に戻ってしまうのですが、もっと早い時間帯に調査を行うべきでした。



表 1 夏の人数調査確認数の推移

| 2007 年 8 月 | 2008 年 9 月 | 2009 年 | 2010 年 8 月 | 2011 年 9 月 | 2012 年 8 月 | 2013 年 8 月 | 2014 年 8 月 |
|------------|------------|--------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 139 名      | 108 名      | 92 名   | 87 名       | 61 名       | 84 名       | 46 名       | 48 名       |



もう一つは調査を行う日程の問題です。当日は北海道マラソンの開催日と重なってしまい、スタート地点である大通公園は会場設営のスタッフたちですでに午前4時には賑わって(?)いました。これでは寝られないと別の場所に移っていた人も多かったのではないかと思います。次回は北海道マラソンの日程を確認してから調査日を決めるようにしなければなりません(来年度への備忘録として)。

これらの課題を一つずつクリアして調査の精度を高めていかなければなりません。今回もホームレスの問題に関心を示してくれた人が多く参加して無事終わることができたことは大きな成果だと思います。これからも調査活動と支援活動と広報活動がうまく連動するような労福会の活動を目指していきたいと思います。

最後になりますが、参加してくださった25名のボランティアの皆さんと、集合場所をかしてくださったなんもさサポート様に、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。(山内太郎)

#### ● 調査結果の分析に関して ●

例年、人数調査に関しては、「調査が目的化している」、「結果を分析せずに調査だけで満足している」というお叱りの声を頂きます。事務局としても、結果を分析することの重要性は感じております。

そうではありますが、事務局がこの資料を利用して学術的分析をするということは、現時点では難しいとも思います。

なので、当面はホームページ等での情報公開を通して、研究や分析がしたという方々に情報を提供できるようにしていきたいと思います。(上田文和)



表2 2014年度夏の人数調査結果の内訳

|        | 男性  | 女性 | 不明 | 計   |
|--------|-----|----|----|-----|
| 市街地エリア | 42名 | 1名 | 4名 | 47名 |
| 郊外エリア  | 1名  | —  | —  | 1名  |
| 計      | 43名 | 1名 | 4名 | 48名 |

# 北 星 学 園 実



## 浜頭 もにか

北海道の労働と福祉を考える会での実習は学ぶことの多いとても充実したものでした。普段接することがないホームレスの方々は自分が勝手にイメージしていた無口で暗い印象というものではまったくなく気さくで明るい人たちばかりでした。そして一人の人間として色々なことを考えていて、ただ家を与えたり生活保護などで解決する問題ではなく色々な会話から悩みなどを聞くことも必要であり大事な支援の形だということを学びました。

あまり人と接することが得意ではない私ですが、温かく指導していただいたおかげでやりきることができました。それも労福会の皆さんがやさしく支えてくださったおかげです。たくさんのことを学ばせていただき本当にありがとうございました。

実際にホームレスの方にお会いして、お話を聞いたことは貴重な体験になりました。夜回りに参加する以前は札幌駅や大通を通っても、ホームレスの方に意識が向かなかったのですが、参加後は札幌駅などを通るとホームレスの方のことを考えるようになってました。それほどまでに今回の経験は私にとって衝撃的で、とても勉強になりました。また、自分で考える力が身につき、視野も広がりました。

今後も今回の経験を忘れず、これからの勉学に役立てていこうと思います。



## 田崎未菜

# 習生の感想

5日間の  
夜回り&人数調査

## 本橋沙夜

5日間ありがとうございました。  
私は今までホームレスについて調べたことがなく、知識もほとんどありませんでしたが、そんな私に色々教えていただきありがとうございました。

夜回りでは、普段通ることのある大通りや札幌駅、狸小路を歩いて、いつもなら何気なく通り過ぎてしまう場所でもよく見てみるとホームレスの方がいるんだと驚きました。また、私の実習前に抱いていたホームレスのイメージは集団生活をしているイメージだったのですが、実際はイメージと全然違ったのでこれも驚きの1つでした。

人数調査では朝の3時から6時までと、いつもは寝ている時間帯の実習だったため不安もありましたが、何事もなく無事調査ができて良かったです。私は大通公園担当でたくさん歩きました。地下鉄の出入り口のところを全部見れなかったので残念でしたが、私なりに頑張れたと思います。調査をしている時、ホームレスの方をたくさん見つけたいという思いと、去年より少しでも減っていて欲しいという2つの思いがあり、複雑な気持ちでした。でもこの調査が何かの役に立てばいいなと思います。



# 会費の納入制度が変わりました

今までは、会費は年度内にいつでも  
納入して良いことになっていました。

これからは、6月末日を会費の納入期限とします。  
それまでに会費を納入されなかった方は、会員資格を喪失します。  
それと同時に、会員用メーリングリストから外され、  
非会員用メーリングリスト（月に1回、夜回りや炊き出しの日程等  
が届きます）に登録されます。  
皆様、早期の会費納入にご協力ください。

## 寄付者

団体：日本キリスト教団  
札幌北一条教会 様  
個人：児玉俊仁 様  
小林幸一 様  
石橋孝彦 様  
工藤直子 様  
廣瀬知宏 様

以上の団体・個人の方々からご寄付をいただきました。  
ありがとうございました。

会報「ともに生きる」30号 —2014年10月1日発行  
発行：北海道の労働と福祉を考える会  
発行責任者：山内太郎  
編集担当：小川遼、本多美沙  
住所：〒001-0008

北海道大学教育学部の教員や学生が中心と  
なって1999年に発足した任意のホームレス支援  
団体です。現在は学生に加えて社会人も多く参加  
し、夜回りや炊き出し、生活保護申請の同伴、  
人数調査などを行っています。

北海道札幌市北区北8条西3丁目28番エルプラザ2階市民活動サポートセンターブースNo.11  
連絡先：☎090-7515-8393 ☒info@roufuku.org [HP](http://roufuku.org)http://roufuku.org